



応援マナーについてのお願い

8月に開催される「北広島ゆうあいバスケットボール大会」は、20年間も続きました。大会を運営している白樺エナジーチームのスタッフは、昨年度の大会終了後に「自分たちは高齢となり、今後の大会の継続は難しい。」と話されていました。しかし、今年度も関係者の熱意と努力で、大会が無事に開催されることになったのは、とても嬉しいことです。暑い夏の大会ですが、今年も体育館は応援の熱い声援に包まれることと思います。

大会での選手のプレーに対しての拍手や声援は、選手だけでなくチームスタッフにも励みとなり、大会を盛り上げる大きな力になっています。

しかし、応援に力が入りすぎて、選手のミスを大声で叱責したり、選手の動き方について強い口調での指示は、その声が観客席から突然に聞こえてくるために、声をかけられた選手だけでなく、相手チームの選手にも強い不安や緊張を生じさせてしまうことがあります。

選手は、ヘッドコーチからの作戦や指示を聞いてプレーしています。しかし、試合中に予期せぬ場所から、予期せぬ人の、強い口調での叱責や大声に、障害特性から動揺してしまいがちな選手は、混乱して感情のコントロールを乱してしまいます。自分に向けられた言葉でないことをわかっているのに、「また声が聞こえてくるのでないだろうか。」と観客席からの声に怯えながらプレーを続けることとなります。

不安な気持ちでプレーしていると、集中力が薄れイライラした気持ちとなり、プレーが荒くなります。必要以上に無理した動きをしてしまうと、自分や相手をケガさせてしまうことに繋がります。

何よりも試合をしている楽しさや明るさがそのゲームから無くなります。

かつて、ヘッドコーチは試合中に選手のミスを怒鳴りながら采配をしている姿がよく見られました。しかし、今年の予選会に出場している東北のチームをみると、ヘッドコーチは選手に指示を与えながらも、ベンチを盛り上げるために率先してオーバーアクションのパフォーマンスをしている姿がとても印象的でした。

劣勢な時やミスをした時に、ベンチが盛り上げて挽回していく力が、団体競技の大きな魅力だと思います。

また、審判の判定に対してのヤジが聞こえてくる場合がありますが、ボランティアとして参加してくれている審判の方にとっても失礼なことです。私も大会での審判をお願いした時に、「昨年度の大会で、とても不快な思いをしたので、今年の大会は遠慮します。」と断られたことがあります。

FIDバスケットボール連盟や各種の大会の主催者からは、観客席からの応援マナーを守るようにと指導の徹底が指示されています。

大会に参加している各チームの選手たちは、どんなに点差が開いても最後まで真剣にプレーしています。そんな選手たちに、「ナイスシュート」「よくやったね。」という気持ちを伝える温かい声援や拍手をたくさん送ってあげてください。

8月の練習日

2日(金)	19:00~21:30	手稲東中学校	夜練習
4日(日)	9:15~12:20	琴似小学校	全体練習
9日(金)	19:00~21:30	手稲東中学校	夜練習
11日(日)	9:15~12:15	琴似小学校	全体練習
18日(日)	北広島ゆうあいバスケットボール大会		
23日(金)	19:00~21:30	手稲東中学校	夜練習
25日(日)	9:15~12:20	みなみの杜高等支援学校	全体練習

